



2024 S-FJ Japan League Rd.5



Super FJ 筑波・富士シリーズ Rd.5

Funtec GT World Challenge Asia Powered by AWS Japan cup FUJI

2024年 6月 23日 天候:小雨/Wet 参加 21台



ジャパンリーグ富士大会は最後尾から優勝へと大逆転のレースが展開された

テキスト:はた☆なおゆき

2024 シーズンも間もなく折り返しを迎え、各シリーズともに白熱の戦いが続いて、大いに盛り上がりを見せるスーパーFJ。筑波・富士シリーズは、前回に続いてジャパンリーグとの併催となる。

それぞれシリーズ第5戦の舞台となるのは、富士スピードウェイだ。

まず、ここまでの筑波・富士シリーズだが、#93 角間光起選手(ELEVレーシング 10V ED)が第3戦からの2連勝によって、ランキングのトップに浮上。ジャパンリーグ遠征ドライバーの挑戦を、真っ向から受けて立つ立場となった。

そのジャパンリーグ岡山ラウンドの連勝によって目下ランキングのトップで、また鈴鹿・岡山シリーズのチャンピオンを決めたばかりの迫隆真選手の姿がないのは残念ながら、同シリーズランキング2位が確定した#43 小田優選手(Drago CORSE TAKE FIRST)、#8 渡会太一選手(FTKレヴレーシングガレージ)といった鈴鹿の優勝経験者が名を連ねており、筑波・富士シリーズのレギュラードライバーも相手に不足はないはずだ。

公式予選

メインレースであるGTワールドチャレンジ・アジアそのもののレーススケジュールは木曜日から始まっているが、スーパーFJ に関しては予選、決勝を日曜日に行う1デイ開催。金曜日、そして土曜日の早朝にスポーツ走行は設けられたが……。ちなみに土曜日はドライコンディションが保たれたが、金曜日はウェットコンディションでの走行となっていた。

予選は早朝 8 時 25 分から 20 分の計測で競われるはずだった。しかし、土曜日の夜半から降り出した雨は一向にやむ気配を見せず、それどころか開始直前になって、より強く路面に叩き続けられるようになっていた。

そのため、本来のスタート時間である8時 25 分にキャンセルのアナウンスが。雨足の強さからすれば、やむを得ない判断ではあったが、それならば決勝のグリッドはどうやって決められるのか。まずは筑波・富士シリーズのランキングが最優先され、続いてジャパンリーグのランキング。いずれにも出場していないドライバーは、申し込み順となったのだが……。

その結果、筑波・富士シリーズのポイントリーダー、#91 角間選手がポールポジションで、2 番手は #14 伊藤駿選手(ZAPSPEED 10V ED)……と続くのは順当ながら、ジャパンリーグ 2 位の#7 松井啓人選手(FTK レヴレーシングガレージ)が 12 番手、3 位の#43 小田選手が 13 番手。ジャパンリーグには今季初参戦となる#8 渡会選手に至っては、最後尾となる 21 番手というのは、どうにも。ところが、このことが決勝で想像もし得なかったドラマを産み出すことになる。



決勝レース



予選後のタイムスケジュールは順当に進み、定刻の12時40分にはスーパーFJのスタート進行が開始された。路面はウェットのままだが、すでに雨はやんでおり、直前には薄い霧がかかっていたものの、これはスタートの頃には走行に支障をきたすまでではなくなっていた。

決勝は12週の争い。もちろん全車ウェットタイヤを装着し、水しびきを上げながらスタートが切られる。1コーナーへのホールショットを#91 角間選手が決めたかに見えたが、そこにアウトから迫ってきたのが、3番グリッドから鋭いダッシュを決めていた#53 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋S2)で、一気にトップへと躍り出る。

このふたりに続いたのは#14 伊藤選手、4番スタートの#55 酒井翔太選手(ファーストガレージ KK-SII)、そして5番スタートの#15 黒川史哉選手(ZAPSPEED 10V)。そして驚くべくは、ヘアピンまでに#43 小田選手がもう8番手にまで上がっていたことだ。

オープニングラップを終えた時点で、先のトップ5はそのままながら、やや間隔を置いて#52 津田充輝選手(ファーストガレージ KK-SII)と#33 磐上隼斗選手(アルビ富士吟景 GIA ED)、#43 小田選手が続き、さらにその後方には17番グリッドから#1 元山泰成選手(Ecotech Works Racing F)、さらに#7 松井選手と#8 渡会選手が。こと#8 渡会選手に至っては、もう10台を抜いてきた格好だ。

2周目に入ると、1コーナーで#55 酒井選手が#91 角間選手を抜いて2番手に浮上。トップ奪還を狙い、3周目の1コーナーで#91 角間選手が#55 酒井選手に迫るも、「ブレーキングポイントの違いで」接触してしまい、ダメージを負ってコース脇でストップ。そのため、セーフティカー(SC)が導



入される。

#55 酒井選手はコース上に留まっていたとはいえ、5番手に後退していたことから、逆に4番手に浮上した#43 小田選手には、上位との差も詰まって千載一遇のチャンスが訪れたも同然。SCの先導は2周に及び、リスタートが切られると実際、1コーナーで#15 黒川選手をかわす。また、その後方でも同様に#33 磐上選手が#55 酒井選手を、そして#8 渡会選手が#1 元山選手を抜いて、それぞれポジションを入れ替えていた。

そして6周目には、まず1コーナーで#14 伊藤選手を#43 小田選手が抜いて2番手に、その勢いでダンロップコーナーまでに、#53 石井選手をも抜いて待望のトップに躍り出る。だが、そのまま#53 石井選手は逃してくれず、8周目の1コーナーで再び前に出られてしまう。そして、その後ろでは#33 磐上選手も#14 伊藤選手を抜いていた。

一方、9周目には#8 渡会選手が、ついに5番手にまで到達。その直後の1コーナーでは#33 磐上選手が#43 小田選手に迫り、前に出たのだが止まりきれずにハーフスピン。あろうことが、まるでつられるような形で#43 小田選手までも、オーバーシュートしてしまう。

これで#53 石井選手がトップに返り咲き、そして2番手に躍り出ていたのが#8 渡会選手だった！ 訪れたビッグチャンスを逃そうはずもなく、10周目の1コーナーで#8 渡会選手がトップに躍り出る。



その後の#8 渡会選手は徐々に差を広げていき、そして最終ラップの1コーナーではチームメイトの#7 松井選手も2番手に浮上。遠征の鈴鹿・岡山シリーズ勢がレースを大いに盛り上げた。

#8 渡会選手は最後尾からの大逆転勝利となり、レース後に破顔一笑。2位は岡山国際サーキットで行われた、ジャパンリーグ第2戦以来の表彰台獲得となった#7 松井選手で、迫選手を1ポイント差ながら抜

いてランキングのトップに躍り出た。そして、3位となった#53 石井選手は筑波・富士シリーズのランキング2位に浮上。4位は#43 小田選手で、11周目の1コーナーで#14 伊藤選手を抜いて、せめてもの意地を見せていた。「止まって欲しかったですね、抜いてくるからには(苦笑)。タイヤもタレていたけど、あの瞬間だけ耐えていれば、きっと逃げきれたでしょうが、しょうがないですね」と#43 小田選手。

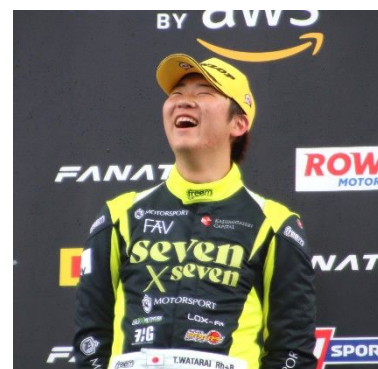
また、最終ラップに#55 酒井選手の先行を許し、6位でゴールとなった#14 伊藤選手ながら、これで筑波・富士シリーズのランキングトップに浮上。上位4名が6ポイント差でひしめき合うことになった。マスターズクラスでは#3 秋山健也選手(スーパーウィングス KKS2)が優勝、総合でも13位でゴールしている。

次回の筑波・富士シリーズは7月28日に筑波で、ジャパンリーグは8月11日に、もてぎでの開催を予定している。



優勝 #8 渡会太一選手(FTK レヴレーシングガレージ)

「急ぎょエントリーが決まったので、確かに申し込みは遅かったんですが、まさか最後尾からのスタートになるとは思ってなくて、(MEC120 のチーム監督、藤波)清斗さんに『お前は持ってない』って言われていたんですけどね(苦笑)。めっちゃしんどかったです！でも、まさか勝るとは思っていませんでした。ストレートは今回もつかったんですが、そこはなんとかうまく、セクター3で合わせてきて。ただ、1コーナーで抜くってというのは、だいぶ厳しかったんですけど、まあ、うまく抜いてトップに立てたので良かったです。テール・トゥ・ウィンってやつですよ、これは。めっちゃ嬉しいです！」



2位: #7 松井啓人選手(FTK レヴレーシングガレージ)

「惜しかったですね、あとちょっとで届きそうだったので。金曜日から富士を初めて走って、2本しか走れていなくて、しかもコンディションも絶えず変わっていたので、そう考えると割と良かったですね。自信にもなります。ちょっと鈴鹿では苦しいレースが続いていたので、新しいところに来て、こうやって結果出せて良かったです。嬉しいですね！」



3位 #53 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋 S2)

「トップを走るの、本当に初めてです。ウォータースクリーンがなくて、楽かったです(笑)。トップを走っている最中は、あんまりドキドキなくて、けっこうミラー見て後ろの様子をうかがっていたんですが、絶えきれなかったことは悔しいところです。これもひとつの経験ですね。ストレートは立ち上がりの差がけっこう効いていて、抜けるかなというところもありましたし、追いついたけどオーバースピードで行ってしまった、というところもあったの、そこはちょっと反省点としてあります」





ジェントルマンクラスの表彰 2位 島山選手 1位 秋山選手 3位 山根選手





2024年 筑波・富士S-FJ選手権 第5戦/S-FJジャパンリーグ 第5戦

№6

S-FJ 決勝レース

2024 / 6 / 23 日 : 4 D



グリッド表

Fuji Speedway(4,563m)

1	1 91 角間 光起 ELEVレーシング 10VED	2 14 伊藤 駿 ZAP SPEED 10VED
2	3 53 石井 大雅 ファーストガ レージ 制動屋S2	4 55 酒井 翔太 ファーストガ レージ KK-S II
3	5 15 黒川 史哉 ZAP SPEED 10V	6 22 内藤 大輝 RaiseUP RCIT ED
4	7 52 津田 充輝 ファーストガ レージ KK-S II	8 3 秋山 健也 スーパーライズ KKS2
5	9 38 島山 遼三 zap speed KKS2	10 33 齋上 隼斗 747 富士吟景GIAED
6	11 47 山根 一人 光精工 TK-Sport MYST	12 7 松井 啓人 FTKレーシングガ レージ
7	13 43 小田 優 Drago CORSE TAKE FIRST	14 25 フェリペ 晶 WRS MASA KKS- II
8	15 4 古黒 拓 FLEET REV KK-S II	16 5 板倉 慎哉 AMORE TOKYO Racing F
9	17 1 元山 泰成 Ecotech Works Racing F	18 71 宮本 颯斗 leprix sport KKS- II
10	19 18 水谷 誠 HC榎川MRPYTTZAPED	20 51 落合 蓮音 ファーストガ レージ KKS-2
11	21 8 渡会 太一 FTKレーシングガ レージ	



2024年 筑波・富士S-FJ選手権 第5戦/S-FJジャパンリーグ 第5戦

No 11

S-FJ 決勝レース

2024/6/23 14:10



正式結果表

Weather : Rain

Track : Wet

Fuji Speedway(4,563m)

Pos	No	Class	C.P.	Name	Car	Type	Lap	Total Time	Ave. km/h	Gap	Best Time	Lap
1	8			渡会 太一	FTKレウレシングカレージ		12	27'33.712	118.538		2'03.858	10
2	7			松井 啓人	FTKレウレシングカレージ		12	27'35.088	118.439	1.376	2'03.759	6
3	53			石井 大雅	ファーストカレージ制動屋S2	KK-S II	12	27'35.959	118.377	2.247 0.871	2'04.434	6
4	43			小田 優	Drago CORSE TAKE FIRST		12	27'36.639	118.328	2.927 0.680	2'03.695	6
5	55			酒井 翔太	ファーストカレージ KK-S II	KK-S II	12	27'38.568	118.191	4.856 1.929	2'04.132	10
6	14			伊藤 駿	ZAP SPEED 10VED	RD10V	12	27'38.632	118.186	4.920 0.064	2'04.537	6
7	1			元山 泰成	Ecotech Works Racing F	KK-S II	12	27'39.425	118.130	5.713 0.793	2'04.170	11
8	15			黒川 史哉	ZAP SPEED 10V	RD10V	12	27'43.286	117.855	9.574 3.861	2'04.667	8
9	52			津田 充輝	ファーストカレージKK-S II	KK-S II	12	27'50.790	117.326	17.078 7.504	2'05.016	11
10	5			板倉 慎哉	AMORE TOKYO Racing F	KK-S II	12	27'51.982	117.242	18.270 1.192	2'05.326	11
11	22			内藤 大輝	RaiseUP RCIT ED		12	27'52.849	117.182	19.137 0.867	2'05.280	11
12	51			落合 蓮音	ファーストカレージKKS-2	KK-S II	12	27'53.850	117.112	20.138 1.001	2'04.363	8
13	3	G	1	秋山 健也	スーパーウィズKKS2	KK-S II	12	27'57.439	116.861	23.727 3.589	2'05.794	10
14	71			宮本 颯斗	leprix sport KKS-II	KK-S II	12	27'57.595	116.850	23.883 0.156	2'05.539	9
15	4			古里 拓	FLEET REV KK-S II	KK-S II	12	28'05.480	116.303	31.768 7.885	2'06.738	12
16	33			磐上 隼斗	アルビ富士吟景GIAED	KK-S II	12	28'07.279	116.179	33.567 1.799	2'03.185	11
17	38	G	2	畠山 退三	zap speed KKS2	KK-S II	12	28'07.382	116.172	33.670 0.103	2'07.223	11
18	47	G	3	山根 一人	光精工 TK-Sport MYST	KK-S II	12	28'16.294	115.562	42.582 8.912	2'06.103	6
19	18			水谷 誠	HC桶川IMRPYTTZAPED	RD10V	12	28'52.462	113.149	1'18.750 36.168	2'08.093	7
20	25	G	4	マシバ 昌	WRS MASA KKS-II	KK-S II	12	29'02.604	112.491	1'28.892 10.142	2'12.701	12
***** 以上完走 (規定周回数 10Laps) *****												
91				角間 光起	ELEVレシング10VED	RD10V	2	4'12.711	125.674	10Laps 10Laps	2'05.607	2

